



第10回沖縄エコツアー◎8月26日～29日

今年は小学生も参加、「さかながかぞえきれないくらいたくさんいた。青いのも見た。」



沖縄・備瀬の海の中



サンゴが生きる海をのぞく小学4年のコウキくん

サンゴが生きづき、
熱帯魚たちが群れ泳ぐ
海がすごい！！

創立10周年を迎え、10回目のエコツアーを、子どもたちや大学生・大学人も参加して8月下旬実施しました。現地の海は、地区の人々によって、サンゴと海の魚たちの見事な楽園が守られていました。以下は、参加者の感想の一部です。

NPOの伊藤宗彦さん—大学院大学で魚の生態を研究中

「はじめて沖縄エコツアーに参加しました。沖縄に行くのは、二度目でしたが、最初に行ったとき



には、雨模様で天気が悪いため、残念ながら青い海は見られませんでした。今回は、突然雨が降り出すスクールに何度も合いましたが、からっと晴れた青い海を見ることが出来てよかったです。



エコツアーの2日目と3日目に、美ら海水族館の先にある備瀬崎の海に行きました。海岸のすぐそばにサンゴ礁が広がり、手の届く距離に色鮮やかな熱帯魚が泳いでいました。特に印象に残ったのは、茶褐色の小さい斑があるカンモンハタ、体色の鮮やかなフグの仲間のムラサメモンガラ、でした。その他には、泳いでいてクロスズメダイの縄張りに入ってしまったときには、足をつつかれ、たびたび驚きました。

東京に帰ってきてから、偶然にも同時期に沖縄の海に行っていた人と話をする機会がありました。その人の話では、行った海にほとんど熱帯魚がいなかったそうです。場所によっては、畑の近くにあると農薬などが海に流れ込んでしまっているのかもしれない。貴重な自然は壊すのは簡単ですが、作るのは容易ではありません。皆で考えていかなければならない問題だと改めて感じました。」

備考—毎年訪問している備瀬地区では、下水を戦後早くから整備し、海に流さないようにして、美しい海を守っています。サンゴに身を守られ、何百という熱帯魚が足の周りを泳いでいました。

家政大4年 教員を目指す 菅谷優歩さん

「初めての沖縄で自然の豊かさをまじかで感じる事ができました。自給自足や有機野菜など自分の健康についても向かい合える日でした。

子どもとかかわる時間も多く、安全面で気にすることも多かったですが、これらは教員となってからも大事なことでありとても勉強になりました。



SOEの紙芝居「原っぱのかくれんぼ」を読み聞かせ

自然がたくさんあるところにすんでいても自然に目を向けることがあまりないことが、沖縄の子どもたちと一緒に実施した『生きもの探し』を通して感じました。自然に目を向けるきっかけを指導者が活動を通して働きかけていかなければならないと学ぶことができました。海のきれいさでも身の回りの自然でも、良くすることも悪くすることも人間によってだと思うので、一人ひとりの意識が大切になってくると気付くことができました。長い時間カヌーにのったのは初めてでした。カヌーをしながら子鯖などの生きものを見ることが出来て感動しました。

備瀬の海では、引き潮でたくさんの魚が見やすく子どもたちと一緒に魚探しをしたり、泳いだりすることができました。実際に見て触れ合うことで得ること学ぶことがあると分かりました。この4日間、環境について考え、学ぶことができました。今後は教員として子どもたちに伝え、自分自身もさらに学んでいこうと思います。」

宮地光希さん 小学4年生

「トラックに乗って葉っぱが手にあたってたりして気持ちよかった。魚がかぞえきれないくらいたくさんいた。つかまえようと思ったけどつかまえられなかった。青いのも見た。カヌーに乗ってどうくつやお魚を見た。水族館に行ってヒトデにさわった。固かった。ジンベイザメも見た。夏休みの総合の宿題でまとめたい。」



天然記念物オカヤドカリ・目に注目

家政大4年 将来教育者を目指す 田島綾子さん

「八重岳からの眺めが素晴らしく、雨の境目がはっきりと見えて興味深い。あまり野菜が好きではないが、八重岳の野菜はすごくおいしかった。有機栽培をされているということで食の安全性に対する意識の高まりを感じた。畑などを見ることで作物も作っている過程や情景を見ることができ、貴重な体験であった。特に稲が2度3度収穫ができるということに驚いた。料理も家庭の味で、このような食事ができたらいいなと思った。海はすごくすんで、きれいな海に感動した。」

八重岳センターで農業や有機野菜を学ぶ



ゴミは思っていたより少なかったが、煙草のゴミが多く、海岸を利用する全ての人のマナーがしっかりしていないといけなと感じた。子ども会は、地元の子どもたちとふれあえる貴重な時間であった。子どもや若い世代が少ないというのは備瀬に限らない。日本中、世界中にも同じような地域がある。他の地域を参考にして良いところを取り入れたり住民同士での意思の疎通が大切になる問題であると思った。カヌーは思ったより簡単に操縦できたことに驚いた。カヌーで洞窟を通ったり、岩場のカニや魚の群れをまじかに見ることが出来るとも面白かった。4日間を通して環境問題だけでなく、地域の問題なども考えることが出来、様々な学びを得ることができた。普通の旅行では味わえないエコツアーならではの体験が出来、楽しいだけではなく、勉強になった。これからも環境問題をはじめとして、学びを続けていきたい。」

ゴミは思っていたより少なかったが、煙草のゴミが多く、海岸を利用する全ての人のマナーがしっかりしていないといけなと感じた。子ども会は、地元の子どもたちとふれあえる貴重な時間であった。子どもや若い世代が少ないというのは備瀬に限らない。日本中、世界中にも同じような地域がある。他の地域を参考にして良いところを取り入れたり住民同士での意思の疎通が大切になる問題であると思った。カヌーは思ったより簡単に操縦できたことに驚いた。カヌーで洞窟を通ったり、岩場のカニや魚の群れをまじかに見ることが出来るとも面白かった。4日間を通して環境問題だけでなく、地域の問題なども考えることが出来、様々な学びを得ることができた。普通の旅行では味わえないエコツアーならではの体験が出来、楽しいだけではなく、勉強になった。これからも環境問題をはじめとして、学びを続けていきたい。」



遠くに伊江島が見える海岸で、参加者がごみひろい



見たことのないみどり米の『青い穂』

《私が気に入った木を見てください》木のプログラム体験

9月28日 SOEワークショップ

「ゼミ生が製作に関わったカードが教材として活用されることになり感無量です。」一家政大宮地孝宜先生

SOEは、小学校中学年向けの「学校の木を決めよう」のプログラムを一層楽しい活動にするため、これまでのワークショップで、東京家政大学・宮地孝宜ゼミ（生涯学習概論）の学生と共同研究してきました。この日は、先生と学生たちが前野公園で、子どもたちに与えたい木のビンゴカードを使って、木の表情や雰囲気を観察体験。自分の気に入った木を探し、その木の魅力を発表しました。そして、改善策を活発に出し



合いました。

- 「久しぶりに自然と触れ合いとてもなつかしい気持ちになった。木や葉の匂い、風や葉や虫の音が自分の原風景だと思った。とても懐かしい気分になった。都会でも自然に触れ合えることに感動した。田舎で当たり前だったことが、都会ではとても貴重なことだと感じた。」
- 「木によって個性がたくさんあった。青桐の葉がおもしろい。」



学芸大学院生 深須祐子さん、家政大 横手美咲さん



感動を語る、
法政大 松尾大輔さん

- 「ビンゴカードの選択肢が子どもたちにも興味深く、素敵だと思った。」
- 「好きなものやお気に入りを見つけるのは楽しい。子どもの反応が知りたい。」
- 「学生の気づき、感性が多様であり伝えようとする姿勢が良かった。」



青桐を語る、
家政大 田島綾子さん

- 「木や花の匂いなど普段意識しないのでとてもよい経験になった。1年を通して木がどうなっていくかを見ていきたい。ビンゴを使ってみることで、子どもの気持ちになって、じっくり見ることができた。」
- 「学生が公園のごみを自発的に拾っていた。」



左から、家政大2年高田美紀さん、宮地先生

ゼミ生が製作に関わったカードが教材として活用されることになり感無量です。」

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp